

NAKAMYOU

喜入中名町



③中名ゆい市場



「中名の農産物を知ってもらおうと同時に、生産者の生きがいがづくりにつなげたい」と地元住民でつくる市場協議会が中心になって平成22年6月に店開きをしました。

毎朝地元農家が採れたての野菜や花木を直接持ち込み棚に並べて直売をしています。

【中名校区国道226号線沿い】

④耕地整理記念碑



大正時代までの八田たんぼは高低差がひどいので、水はけが悪く、水が腰までくるので板に乗って田植えをしたところもあるなど、稲や麦などの収穫が少なかったことから、中名の人達を中心に4年の歳月をかけて耕地整理が行われました。当時はスコップ、つるはしなど作業は全て人力で行われました。中名の産業を盛んにし、生活を豊かにするために苦勞を乗り越えて耕地整理を完遂した先人達の偉業をたたえ愛宕川沿いに記念碑が建立されています。

【中名校区下集落】

①黒地蔵



黒地蔵は、永正5年(1508年)と刻まれており、三国名勝図会によると黒地蔵坂(樋高の北上方)に安置されていたとあります。この地は、樋高の高台にあって、絶景地であり、領主の休憩所が設けられていた場所です。その後台地の下に道路が弘化4年(1847年)に開通し、その道路沿いに安置されていましたが、現在は、国道226号線の樋高橋脇に移されています。

【中名校区上集落】

②青のりの養殖



冬季の基幹漁業として、青のり(ヒトエグサ)の養殖が海岸で行われています。

喜入の冬の味覚として12月~3月に新のりが収穫されて、生のりや冷凍のりとして市場へ出荷したり、販売が行われています。

【中名校区上集落】

⑤中名金鉱山跡



中名金鉱山は、明治35年(1902年)に試掘をはじめましたが、企業にまで至りませんでした。その後、昭和11年(1936年)に本格的な採掘が始まり、一時は隆盛しましたが、昭和18年(1943年)に休山となり、その後幾度か復活につとめましたが、本格操業には至らず閉山となっています。

現在もその坑道跡から清水が湧き出ています。

【中名校区中集落】

⑥樋高大谷展望所



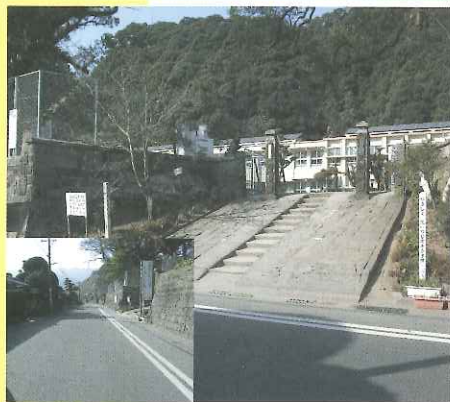
昭和58年(1983年)に皇太子殿下(現天皇陛下)同妃殿下(現皇后陛下)行啓の折、樋高展望所にお立ち寄りになり、眼下に広がる景観の素晴らしさと沿線に咲く合歓の花に心を寄せられ、皇太子妃殿下におかれては、「薩摩なる喜入の坂を登り来て合歓の花見し夏の日想ふ」の句をお詠みになりました。昭和63年(1988年)6月両殿下の行啓を記念し、御歌碑が建立されました。

【指宿スカイライン沿い】

喜入町



① 肝付家仮屋跡と麓馬場



鹿児島城下の肝付屋敷は、現在の市民福祉プラザの場所で、五千石一所持ちでした。肝付家の仮屋は、4代兼屋のとき承応2年(1653年)に旧麓から麓に移りました。これが、現在の喜入小学校敷地です。周辺には、広い馬場と共に石堀、門構えなど当時を偲ばせるたたずまいがあります。

【喜入校区麓集落】

② 鹿籠殿墓



島津忠国(島津家十代当主)の第七子島津忠弘が明応4年(1495年)喜入氏の初代となり、五代季久は、枕崎市鹿籠に移封されました。このため喜入では第四代領主忠俊とその室の墓を「鹿籠殿墓」とよんでいます。

この後喜入氏は明治まで鹿籠を治めました。枕崎市鹿籠には、喜入氏累代の墓があります。

【喜入校区麓集落】

③ 刀匠玉置家歴代の墓



玉置一平安代は、江戸享保の頃に活躍した肝付家臣の刀鍛冶で、将軍吉宗の命により江戸浜御殿で妙技をふるい御腰物二振を作り、その功によって刀室に葵一葉を許され、主馬首に任ぜられました。(県指定文化財として指定された、刀匠玉置家歴代の墓所が麓にあります。)

【喜入校区麓集落】

④ 萬松山清涼院跡と十三仏像



寛文11年(1671年)領主肝付兼屋婦人(島津家久の息女)が死去し、当初菩提寺を鹿児島島の松原山中に建立しましたが、享保元年(1716年)この地に遷座し清涼院と称しました。

清涼院殿の墓地敷地内に、凝灰岩製の高さ100cm、幅45cmの石塔が建てられています。東側に十三仏像、西側に毘沙門天像が刻まれておりますが、その由来については不明です。

【十三仏像とは、初7日から33回忌まで、13回の年忌ごとに配される仏のことで。】

【喜入校区麓集落】

⑤ 千手観音(清涼院墓地入り口)



この地の千手観音は、享保11年(1726年)に兵具所屋敷城戸入馬場に建立された後、現在地に移されました。移された年代は不明です。【人間は、いろいろなことでまたあらゆる形で救いを求めており、そのすべての願いに答えるために千の手を持つのが千手観音です。】

【喜入校区麓集落】

⑥ 自現坊滝の磨崖仏



刀工中村家八代清行の三男清興は、権大僧都自現覚光としてここで修行したと伝えられており、その名から自現坊滝の名が付けられ、またその兄清房が施主となって如意輪観世音菩薩を彫刻し、その傍らには梵字も刻まれています。

【県道232号線(喜入知覧線)の淵田集落入り口の下を流れる淵田川沿いにあります。】

【喜入校区淵田集落】